

# 映画で学ぶ 環境問題



ワールドエンド 2012

監督：R・クリスチャン・アンダーソン  
脚本：ブライアン・デリザリュ  
出演：ライケン・ゼイン  
共演：シャイ・ピルグリーン、  
シュー・レイザー、  
テマ・ヨハンセン 他

公開：2010年アメリカ

もし、世界が終わる日を知ったらあなたはどつしますか？  
残りの日々を誰とどう過ごしますか？

今回「映画で学ぶ環境問題」に取り上げた作品は『ワールドエンド 2012』原題は『Defcon 2012』  
マヤ文明において用いられていた暦の一つ長期暦が、2012年12月21日から12月23日頃(にひとつの区切りを迎えると言われている

2012年(人類滅亡説)問題を題材にしたSFアクションです。

2009年10月30日、

地球滅亡をテーマにした映画撮影途中に撮影スタッフとキャスト全員がなぞの失踪をよげる事件が発生したことからストーリーははじまります。彼らは2012年の【地球滅亡説】にせまった作品を撮影しており、映画の内容が彼らの失踪に何か関係があるのではないかとささやかれていました。しかしその後フィルムは発見される

事はなく、2012年9月10日、事件の捜査をしていたなぞの機関(CEA(中央地球外生命機関))は彼らの撮影していた映像の行方を追いつき、無意味で悲しいことだと思えます。美しい環境をつくるためには1人1人が行動し協力し合うことが大切なのではないでしょうか。なぜならそれは人間(地球人)が持っている何よりの宝なのからです。

映画を通して、この世で一番怖いことは孤独だと思いました。この作品の中でいう孤独とは人が人を信じることができなくなり互いに裏切ったりおとしめたりすることです。全ての人類が孤独を味わうと世界は争いでたえなくなってしまう。映画の中でも、2012年に世界が終わるといふことを知った人類は混乱や不安、恐怖のすえに政府や警察をおそつたり暴動を起こしはじめてしまいます。

そんな危険な冒険の果てに主人公が手に入れた宝は「家」でした。やっと心から信じあえる仲間、つまり新しい家族を手に入れることができ共に新たな一歩をスタートさせるのです。それは孤独もなく争いもない決

して消え去ることのない場所でした。  
昨今、日本も原発など数々の環境問題をかかえています。誰かを責めたりしても何も変わりませんし、無意味で悲しいことだと思えます。美しい環境をつくるためには1人1人が行動し協力し合うことが大切なのではないでしょうか。なぜならそれは人間(地球人)が持っている何よりの宝なのからです。

そしてこの映画から学べる環境問題は光の大切さです。電気はもちろんありませんし、月の明かりすらありません。時計で1分1秒の時を刻むためには太陽の光のほり、しずみ月が照らす夜が明けて1日が終わる。そしてまた次の日ははじまる。こうして暦を数えていくことは地球人にとって当たり前であり大切なことなのです。  
ただのSF映画ではなく改めて今生きている環境に、すべてに感謝したくなる、そんな作品です。ぜひ、一度鑑賞されてみてはいかがでしょうか。

## 稼働を止めた原子力発電所の活用

脱原発で10万人もの国民が、国会や総理官邸の周りをデモしている。その中には、大江健三郎や坂本龍一など芸術家達か、日本の未来を憂いて、反対の声を上げてきている。それは、それで勇氣のある正しい行動だと思ふ。だが、与野党の政治家や行政マン達か、同じようにそのデモに参加しているのは如何なものかと思ふ。彼らには、これからの日本のエネルギー政策を真剣に考えて、政策を立案するという役目があるはずだ。

私は筋金入りの原発の廃止論者だが、原発を全部すぐ止めるという事には賛成はできない。何故なら、原発の稼働を止めたとして、捨て場のない燃料棒をプールで冷やし続けなければならない限り、稼働させながら、安全を管理する方がより安全だと思つてい

る。そこで、一つのアイデアを考えた。海辺にある原子力発電所の活用方法である。原発の稼働を止める替わりに、日本近海に多く埋蔵されているメタンハイドレードを使つた発電を、ここで出来なにかという仮説である。超低温のメタンハイドレードを使えば、二つの発電が可能になる。一つ

は、当然、物質そのもののメタンガスを使った発電であるが、もう一つはメタンハイドレードが超低温である事を利用して、超高温の燃料棒を冷やしなから、温度差発電もできるのではないかと考える。二つの発電が同時にできれば、効率が良い。すでに、送電線はあるので、設置費用はかかるので、原子力発電所での発電事業が継続すれば、近隣住民の雇用も繋がる。三井造船などメタンハイドレードを掘り出し、運ぶという開発はすでに進んでいるので、費用までに費やす時間は短く思ふ。

逆に、私が最悪だと思つているエネルギー政策は、地方に設置するメガソーラーである。休耕田や山の斜面に設置して、送電線を新たに引き都市部に送るなどという、馬鹿な政策は止めた方がいい。再生可能なエネルギーの利用は、あくまで、都市部であれ、農村部であれ、地産地消で、スマートグリッドという手法に限るべきだと思つている。エネルギー政策を、費用対効果や、環境の観点だけで議論するのはなく、日本の安全保障という側面からの議論も、して欲しいと思つてい

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

## スタッフ紹介

日頃は営業活動やお電話で対応させていただいておりますスタッフの日常をお伝えいたします。

日頃からお世話になっております。今年の四月に入社致しました藤田と申します。

東京支店・営業部に配属となり日々精進しております。入社して約半年近くなりですが、週五日働いていると本当は、毎日決まった時間に起きる事や背広を着て満員電車通勤する事など、そんな当たり前の事が結構辛かったのですが、黄色いランドセルを背負った小学生が元気良く通学している姿を見て改心致しました。職場にも慣れ始め、先輩方にも恵まれ、社会人として営業として早く一人前にならなくてはと思つています。

最近一人でも外回りをするようになりまして。訪問先でお客様との会話の間が持たず上手くコミュニケーションがとれないこともあります。何気ない会話というものがこれほどに難しいとは...それでも新人なりに背伸びせず一つ一つ覚えていこうと思つています。

また、この夏の暑さに苦戦しております。程良く暑くてくれれば四季の風流なんて十分なのに、まさに字の如く「猛暑」であります。

営業中はスーツにネクタイ



東京支店 営業部 藤田諒平

を締め、汗を噴き出しながら朦朧とする事もしばしば。日陰を探す毎日です。この暑さの中、建設現場で作業されている職人さんからすれば大した問題では無いのかもしれませんが、思わぬところに社会の洗いが待っていました。  
この苦しみも営業という仕事の宿命のひとつ、これが当たり前になる日を願って慣れるしかないですね。とにかく秋が待ち遠しい限りです。  
こんな私なので、ちょうど今お読み頂いている方にもご迷惑をおかけしてしまふかもしれませうが、とにかく「やるしかない」の一心であります。とにもかくにも早く一人前になり、皆様の前で堂々と仕事ができる日を目指し努力していきますのでよろしくお願致します。

次号も  
お楽しみに



URL : <http://www.dainichikasei.co.jp>

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.

●本社  
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13  
TEL : 06-6909-6755(代) / FAX : 06-6909-6702  
●東京支店  
〒105-0013 東京都港区浜松町1-2-5  
TEL : 03-3436-3801(代) / FAX : 03-3436-3803